



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

「12月より電子カルテ導入へ

～より安全で質の高い医療を目指して～

当院では、2025年12月より電子カルテの運用を開始いたします。これまで紙で管理していた診療記録をデジタル化することで、医療の質と安全性を一層高めることを目的としています。

電子カルテの最大の利点は、診療情報の一元管理が可能になることです。医師、看護師、薬剤師、心理士など多職種がリアルタイムで情報を共有できるため、患者さんの状態に応じた迅速かつ確かな対応が可能となります。これにより、診療の精度が向上し、重複検査の防止や投薬ミスリスク軽減にもつながります。

また、紙カルテに比べて記録の保存性が高く、紛失や記載漏れの心配が少なくなります。患者さんのプライバシー保護にも配慮されたシステム設計となっており、安心して医療を受けていただけます。

新しいシステムへの移行にあたり、患者さんにはご不便をおかけする場面もあるかもしれませんが、職員一同、丁寧な説明とサポートを心がけてまいります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

「電子カルテ導入に向けて」

琉球病院 院長 福治 康秀

当院では、長年電子カルテの導入を目指してきましたが、諸事情によりなかなか厳しい状況でした。国立病院機構の精神科病院での共同入札により電子カルテ導入が決まり、当院においては、本年12月に念願の電子カルテ導入が行われます。紆余曲折ありましたが導入することが決まり喜びもひとしおです。鋭意準備を進めています。さらなる診療の機能アップを図り、より良い医療・サービスを届ける決意です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

琉球病院 副院長 真栄里 仁

電子カルテの導入は、ペーパーレスによる業務効率向上だけでなく、情報共有や検索、治療方針の明確化、チームの一体感などに大きく寄与し、当院の臨床水準を向上させ、患者様や地域にとっても大きなメリットがあります。12月からバージョンアップすることになる琉球病院にご期待ください。

● **地域連携室だより**

精神保健福祉士 長浜 直輝

地域医療連携室では初診の相談だけでなく通院中、入院中の方の経済的な相談、就労に関する相談、社会資源に関する相談など様々な相談をお受けしています。患者さんやご家族の方、支援者からの相談など様々な方からのご相談があります。地域医療連携室の場所は受付隣となっておりますので、お困り事がございましたらぜひお気軽に連携室までお声かけください。

院長



ふくじ やすひで
福治 康秀

1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本森田療法学会理事。
日本病院・地域精神医学会理事。
琉球大学医学部 臨床教授。

診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・クロザリル外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数

353 床

- ・精神 151 床
(一般精神・クロザピン専門・精神科救急)
- ・アルコール依存症 44 床
- ・児童思春期ユニット 4 床
- ・重症心身障がい 90 床
- ・医療観察法 37 床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15
(土・日・祝日・年末年始以外)
TEL 098-968-2133(代)
内線 231・234

地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550
FAX 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

精神科医長 木田 直也



クロザピンの治療状況

治療抵抗性統合失調症の患者さんに対して、当院では2010年2月からクロザピン (CLZ) 治療を開始し、登録症例数は延べ441例になりました。2025年6月のCLZ登録症例は1例でした。CLZ導入前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために、隔離や身体拘束が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動が消失、もしくは軽減し、ほとんどの症例で隔離や身体拘束は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマ社の医療関係者向けサイトのクロザリル/クロザリル適正使用の流れ (<https://www.drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/point/>) でも動画が公開されていますので、ご参照ください。

西皿病棟のご紹介

西皿病棟師長 竹島 銀治

当病棟は医療観察法の指定入院医療機関として運営しています。医療観察法は、心神喪失または心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った者が裁判所の命令で入院し、病状の改善と同様な他害行為の再発防止、社会復帰を促進することを目的に入院治療する病棟です。治療には、医師・看護師・公認心理士・作業療法士・精神保健福祉士などの多職種でチーム医療を展開し専門性の高い治療を行っています。

今年、開棟18年目が経過し、以前は県外の方も多く入院されていましたが、全国的にも医療観察法病棟が設備され、現在は県内の方を中心に受け入れています。季節の行事プログラムを取り入れ、関連機関、地域支援者と連携し、社会復帰を促進しています。

外来のご紹介

外来師長 宮城 桃子

当院外来部門では、統合失調症や双極性障害の他、アルコール依存症やギャンブル依存症に対しての専門的診療治療、こどもの発育・発達に関連する悩みや心の悩みに対して、こども心療科がございます。当院外来では、丁寧な対応を心がけ、専門的な知識を持ったスタッフが患者さんに寄り添い、患者さんの意向に沿った治療・看護を目指しています。医師をはじめ、看護師・心理士・薬剤師・栄養士・作業療法士・精神保健福祉士といった多職種が治療に関わることで患者さんがその人らしく、穏やかな社会生活が送れるよう支援を行っています。ぜひ御家族だけで悩まずにいつでも外来・地域連携室へご相談ください。

こども心療科について

心理療法士 我喜屋 良行

琉球病院では県から「子どもの心の診療ネットワーク事業」の委託を受け、県内の子どもの心の診療を行っている医療機関や関係機関とのネットワークの構築、人材育成などの取り組みを行っています。その一環として、離島支援や実地研修の受入れなどを行っています。7月には八重山での症例検討会やミニレクチャーを行ってきました。医師だけでなく、たくさんのパラメディカルスタッフの方にも参加いただき、児童思春期のケースへの関心の高さを感じることができました。研修後のアンケートでは満足したという声をいただけて励みになっただけでなく、たくさんの気付きをいただくことができました。今後も離島を含め、県内の医療機関が繋がれるネットワーク作りに貢献できればと考えています。

「うなぎ」で夏バテ予防

管理栄養士 矢口 友梨

多くの患者さんに楽しみにしていただいている、月1～2回の行事メニュー。7月は、土用の丑の日に「うなぎ」を提供しました。常食の方はもちろんのこと、歯のない方や飲み込む力が落ちている方にもお楽しみいただけるよう、うなぎを一度ミキサーにかけ、うなぎの形に再形成した「うなぎムース丼」にしました。

今後もみなさまに食事を満足いただけるよう、努めてまいります。ウサガミソ〜レ〜



うなぎ



うなぎソフト